

内容項目名	友情・信頼	(内容項目番号 B- (8))
資料名	「嫌われたってチームの為に」(出典 「朝日新聞」)	
学校名	市原市立ちはら台西中学校	指導者 菅野 雅典

1 学習指導案

中学校 2 年 4 組 道徳学習指導案

平成 2 9 年 1 0 月 2 5 日(水) 5 校時

(1) 主題名

人間関係のありかた

(2) ねらい

新聞記事「嫌われたってチームの為に」(朝日新聞)を通し、佐藤選手が、仲間に厳しくできたのはなぜか考えることから、お互いの気持ちを伝え合い信頼関係を築いていくことの大切さに気づき、豊かな人間関係を築いていこうとする態度を育てる。

(3) 主題設定の理由

内容項目 B - (8) では、友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくことを目標としている。

中学生の時期は、友達との関わりにおいて、なるべくぶつからず、あたりさわりのない関係であったり、言いたいことがあっても傷つくことを恐れ、馴れ合いの関係になってしまったりすることがある。また、昨今は、ありのままの君でいいよという現状肯定の雰囲気もあり、あなたのこういうところがおかしいと思うなど怖くて言えない雰囲気もある。さらに、絆という言葉もいたるところにあふれ、人と人の結びつきが強調されている。しかし、実際は人間関係を上手く作れず悩みを抱えてしまう生徒も少なくない。

本校の生徒は、多くの生徒が礼儀正しく、真面目であり、落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、新興住宅地ということもあり、人間関係は希薄で、自分の気持ちを伝えたり、コミュニケーションをとったりすることが苦手な生徒も多い。また、LINEをはじめとする SNS を使ったコミュニケーションツールを多くの生徒が利用し、たくさんの人とつながりをもっている。しかし、SNS を利用してのコミュニケーションでは、人と直接関わっていないため、トラブルになることもたびたびあった。

本学級の生徒は、明るく真面目な生徒が多い。また、なかなか学級に入れたい友だちに対して温かく迎えるような雰囲気もある。行事にも一生懸命取り組む生徒が多く、WESTIVAL (文化祭)でのクラス合唱では、一つにまとまることができた。しかし、中には自分の気持ちを相手に伝えたり、思ったことを行動に移したりすることが苦手な生徒もいる。その為、仲間に対して言いたいことがあっても直接言うことをためらい教師に解決を求めることもある。

以上のことより、これまでの自分自身を振り返りながら、資料「嫌われたってチームの為に」(朝日新聞)を通し、一つの目標を達成しようとするなかで佐藤選手が、仲間に厳しくできたのはなぜか考えることで、お互いの気持ちを伝えることの大事さや何でも言い合える関係、受け止める側の受けとり方など、人間関係のあり方について考えてほしいと思い本主題を設定した。

(4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援 ☆評価
導入 (5)	<p>1 これまでの経験を振り返る。</p> <p>○部活動や合唱などの取り組みの中で、仲間に言いたいことを直接言えなかった経験がありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そんな経験がある。 ・自分は、いつも思うことを言えていないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値への方向付けをする。
展開 (35)	<p>2 資料1を読んで考える。</p> <p>○資料の()に入る言葉について考えてみよう。</p> <p>○印象的だった文に線をひこう。</p> <p>○佐藤選手が部員に厳しいことを言っているが、自分ならどうか考えよう。</p> <p>○仲間なのになぜ言えないのだろう。</p> <p>◎部員達とどのような関係だったから言えたのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・〈(嫌われ) たってチームの為に〉 ・〈(嫌われ) たってチームの為に〉 ・嫌なら野球、やめちまえ。 ・佐藤に怒られる前にちゃんとしよう。 ・何度も口論になった。 ・私は、言えると思う。 ・自分には同じようなことはできないな。 ・嫌われるから。 ・言う勇気がないから。 ・仲が良いから。 ・部員に厳しい→嫌われる→でも勝ちたい→チームの為に→仲間の為に→うわべだけではない→本当の仲間…。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1を配付し、範読する。 ・佐藤選手の立場について確認しながら考えるようにする。 ・すぐに出てこない場合には、ヒントとなる文を伝える。 ・数名発表させ、生徒の考えに共感しながら聞くようにする。 ・次の発問に関わる文が出ない場合には、教師の印象に残った文として仲間に厳しくしていることを伝える。 ・これまでにそのような経験がないか振り返りながら聞くようにする。 ・ワークシートを配付する。 ・ウェビングマップを用い、個人で考えるようにする。 ・ホワイトボードを用い、道徳班で1つのウェビングマップにまとめ、発表させる。 ・司会者と発表者を決め、取りかかるようにする。 ・何でも言い合える関係、受け止める側の受け皿の大きさなど、部員たちと人間関係ができてきているからこそ言うことが

			できることに気付くようにする。
終末 (10)	3 今日の授業を通して、これからどのように生かしていきたいか考える。 ○この授業を通して感じたことを書きましよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴れ合いの関係ではなく、言い合える関係を作りたい。 ・今までは、言えなかったこともあるけど何でも言い合いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・純粹に感じている気持ちを書くように伝える。 ・机間巡視しながら指名する生徒を決める。 ・数名指名して発表させる。 ☆お互いの気持ちを伝え合い信頼関係を築いていくことの大切さに気付くことができ、今後の生活に生かそうとしているか。(ワークシート)

(5) 他の教育活動との関連

- ・学校行事、部活動指導などさまざまな場面の活動に生かすことができる。
- ・総合的な学習の時間や学級活動の時間などに、人との関わりや人間関係に関わるエンカウンターを行う。
- ・道徳の授業では、1年次から生徒の実態に応じたタイムリーな題材を取りあげ、心を育ててきた。本題材「嫌われたってチームの為に」を扱うにあたり、これまでに「友だちの良いところを見つけよう」、「丸ごと自分を好きになる・丸ごと友だちを好きになる」という題材を行った。それらの授業と関連付けて行うことで、人との関わりに関する仕上げとして締めくくるようにした。

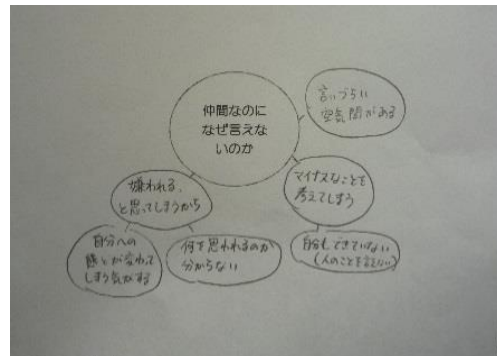
2 事後検討会

(1) 授業記録

- T 部活動や合唱などの取り組みの中で、仲間に言いたいことを直接言えなかった経験がありますか。
- S 合唱の時、笑顔で歌いましょうと言っている人が、笑顔ではないと思ったけど言えなかった。
- T では、この新聞記事を読んでみよう。(資料を配付し、範読する。)
- T この夏の甲子園大会、二松学舎大学付属高校佐藤選手の記事です。佐藤さんは選手ですか。
- S 学生コーチ。
- T そうです。同じ高校生ですがコーチです。では、資料の()に入る言葉について考えてみましょう。
- S (嫌われ) たってチームの為に
- T 嫌われたってというのは衝撃的でしたか。次は、印象的だった文に線をひきましょう。
- S 「佐藤に怒られる前にちゃんとしよう」
- S 自称「嫌われ役の学生コーチ」
- S 寮の食事では選手が食べる米の量を、目の前のはかりでチェック。筋トレも監視。「嫌なら野球やめちまえ」…など
- T 今、言ってくれたように佐藤選手は部員に厳しいことを言っていますが、自分なら言えますか。

S 「言える」 3人 「言えない」 多数

T 仲間なのになぜ言えないのだろう。ウェビングマップで自分の考えを書いてみましょう。
(ワークシートを配付する)

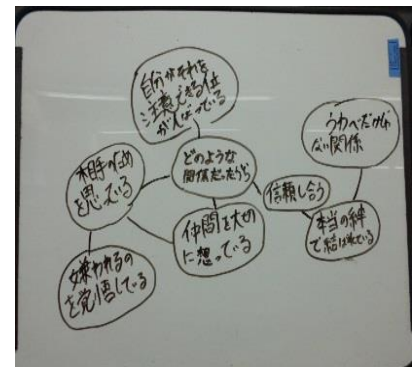
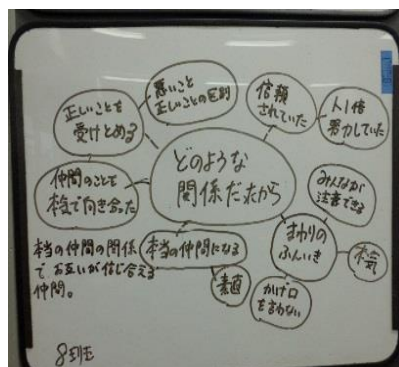
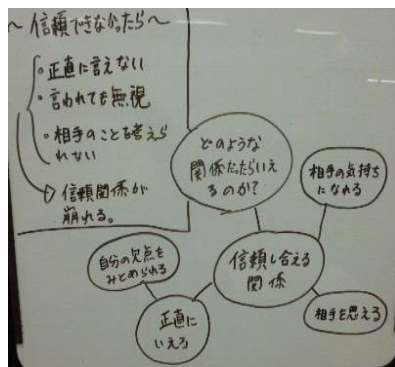


- S 言い返されるから。
- S 関係が崩れるから。 ⇒嫌われるから。
- S 自分が言えることじゃない。
- S 友だちだから。

T では、佐藤選手は、部員達とどのような関係だったから厳しいことを言えたのでしょうか。道徳班で考えましょう。

(ホワイトボードとペンを渡す)

S 1班…8班 ※それぞれ話し合ったことを確認しながら次の班の発表へ



T 信頼関係が深い、何でも言い合える関係などが出てきました。自分で考えたところ、班で考えたところ等を振り返り、この授業を通して純粋に感じたことを書きましょう。

S 厳しいことを言えたのは信頼があったからだと思います。自分たちの部活も信頼し合い、なんでも言えるようになった方が、自分のためにも相手のためにもなると思うからそういう関係を作っていきたいと思います。…など



(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・私も合唱の時、パートリーダーでもないけど、言いたいことがあっても言えませんでした。今日班で話し合った意見で出たことをすべて満たせるような関係はなかなか難しいと思うけれども、そのような関係になれてこそ仲間だと言えるとと思いました。
- ・私は、今回の授業を通して、仲間に厳しいことを言えないのは、本当に信頼し合えていないからではないかと思いました。本当に信頼し合える関係なら、佐藤選手のように仲間のことを考えて言えると思います。だから、私はこれからクラスや部活動などの仲間と本当の意味で仲間になれるようにしたいです。
- ・自分が嫌われ役になってまでも仲間に注意できてすごいと思いました。注意したら言い返されたり、仲が悪くなったりするのは怖いけれども、これからは仲間に注意しても関係が崩れないような信頼関係を作っていきたいです。

(保護者の感想)

- ・とても感動しました。本音で言い合える友だちは、一生の友人になると思います。そんな素敵な友人をゆっくりでも良いので見つけて行ってほしいと思います。私も、再度考えさせられました。ありがとうございました。
- ・本音で言い合える友だちを見つける事は、なかなか出来ることではないと思いました。この授業をきっかけに皆が本音を言える友だちが出来ることを望みます。一生懸命に考える子ども達の姿に感動しました。
- ・発表を聞く態度がとても良かった。グループでの話し合いも全員がきちんと参加していて良かったです。合唱を見ていても思いましたが、とにかく全員がまじめにいろいろなことに参加しているのが素晴らしいと思います。何でも言い合えてお互いを認め合える友だちをたくさん作ってほしいと思います。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 教材について

本資料は、2017年8月19日(土)朝日新聞朝刊の、はま風「嫌われたってチームの為に」の新聞記事を用いた。近年、LINEやTwitterなどのSNSが発達し、中学生の多くがこのコミュニケーションツールを用い、画面上で会話をしている。その為、面と向かって話す機会も減り、コミュニケーションをとることが苦手な生徒も多い。こうした現状の中、二松学舎大学付属高校の学生コーチとして部員に面と向かって厳しい言葉をかけ、チームのために嫌われ役に徹する佐藤選手。学生コーチという中学生にはなじみのない立場であるものの、信頼関係のもとに成立している、本当の仲間関係や人間関係について考えられる資料として本資料を選んだ。

(2) 指導上の工夫

本校では、各教科において、共同的な学びを組織し、思考力・表現力の育成にあたっている。グループ活動や作業的活動を通し、話し合いや対話を大切にしながら行っている。道徳の授業においても、少人数グループや仲間との対話を大切にしながら行っており、話し合い活動を取り入れた。話し合い活動では、さまざまな人との関わりをもたせたい為、普段慣れている生活班ではなく、4人班を基本とした道徳班で活動を行った。そして、自分の考えをまとめやすくし、話し合い活動が活発になるようにするためにウェビングマップを用いるとともに、班でまとめた意見を全員が見ることができるようホワイトボードを用い、黒板に提示するようにした。結果的に、自他の考えを深め合い、今後の生活に生かそうとする意欲につながった。